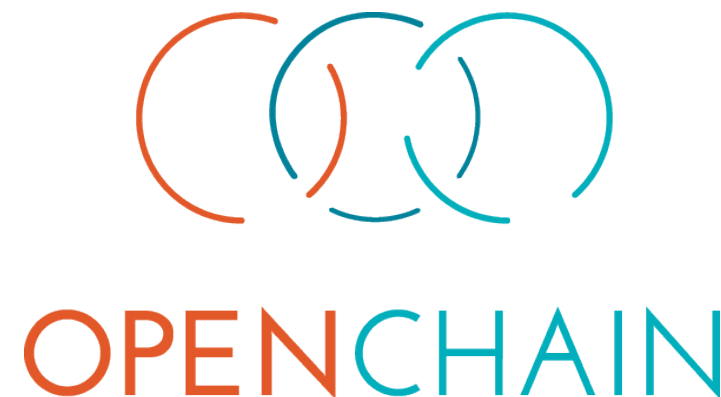


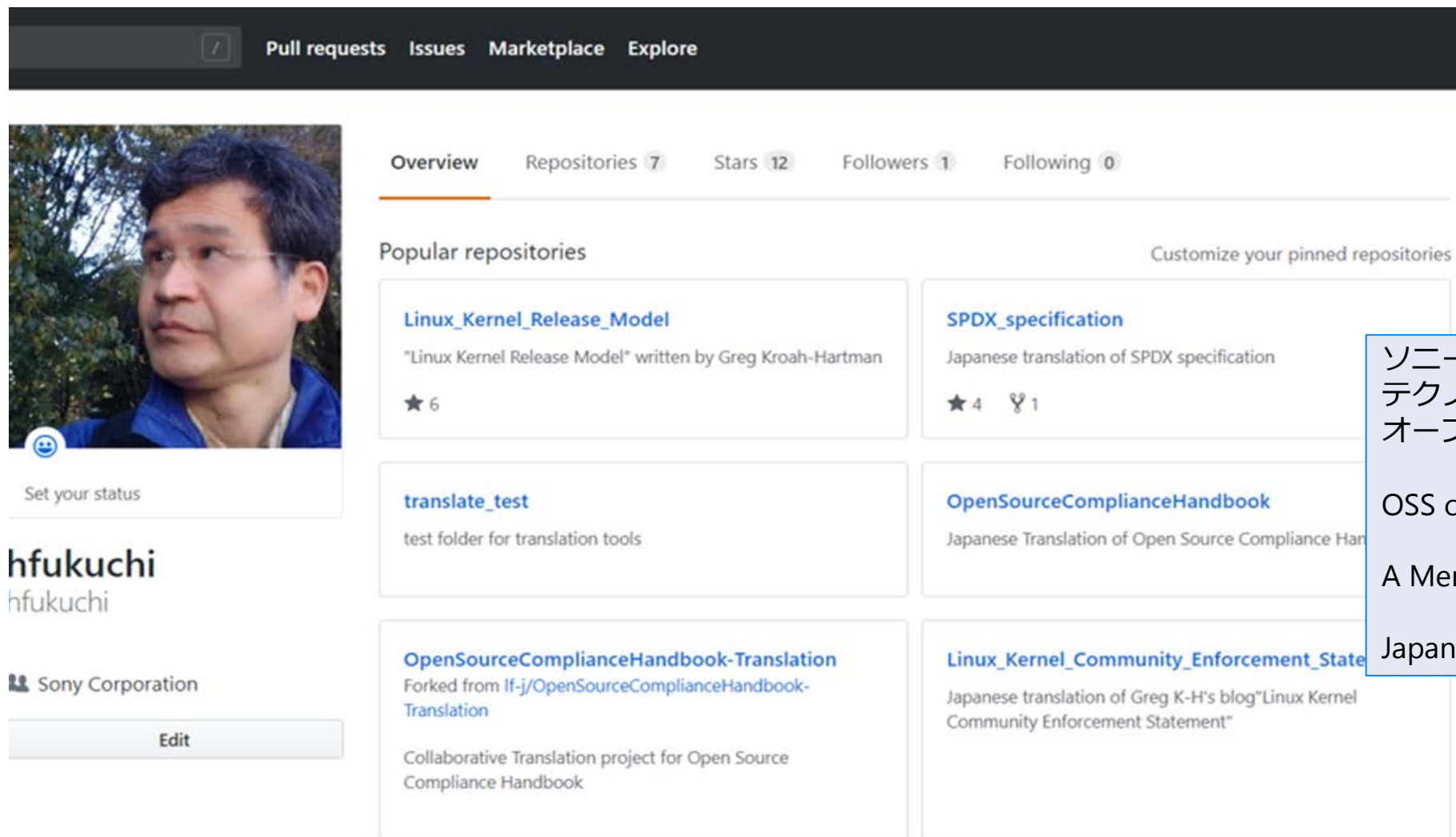
# OpenChain Project Japan WGの紹介

---

ソニー  
福地 弘行



# 自己紹介



The screenshot shows a GitHub profile for user 'hfukuchi'. The profile includes a header with navigation links (Pull requests, Issues, Marketplace, Explore), a profile picture of a man, and a bio section with the name 'hfukuchi' and affiliation 'Sony Corporation'. Below the profile, there are statistics for Repositories (7), Stars (12), Followers (1), and Following (0). The 'Popular repositories' section lists several repositories: 'Linux\_Kernel\_Release\_Model' (6 stars), 'SPDX\_specification' (4 stars, 1 fork), 'translate\_test' (test folder for translation tools), 'OpenSourceComplianceHandbook' (Japanese Translation of Open Source Compliance Handbook), 'OpenSourceComplianceHandbook-Translation' (Forked from lf-j/OpenSourceComplianceHandbook-Translation, Collaborative Translation project for Open Source Compliance Handbook), and 'Linux\_Kernel\_Community\_Enforcement\_State' (Japanese translation of Greg K-H's blog "Linux Kernel Community Enforcement Statement").

福地 弘行

ソニー  
テクノロジーアライアンス部  
オープンソース推進課

OSS compliance in Sony

A Member of OpenChain and Japan WG

Japanese translation volunteer

# Agenda

---

## OpenChain Project

- 概要紹介

- 今後の動向

## OpenChain Japan WG

- 概要紹介

- ライトニングトーク

- サブグループ活動

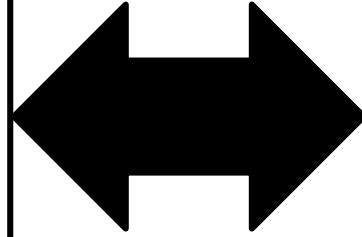
- オープンコミュニティ

- リソース

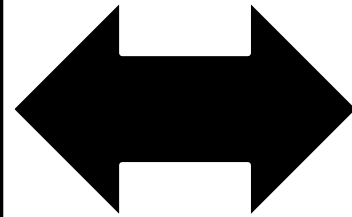
# オープンソースの基盤と暗黒面

---

OSSライセンス



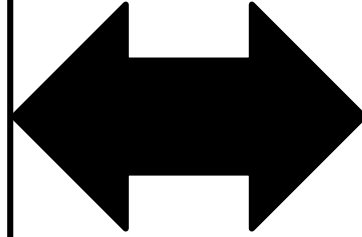
オープンコミュニティ



# オープンソースの基盤と暗黒面

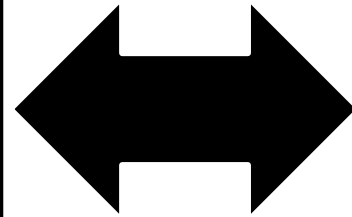
---

OSSライセンス



無視  
無理解

オープンコミュニティ



無人  
無政府状態  
専制独裁

---

OpenChain  
OSSコンプライアンスのコミュニティ

OpenChain Japan WG  
OpenChainの日本での活動  
成果を発信  
日本語で活動  
グローバル連携

---

# OpenChain project

# OpenChain project

Linux Foundation傘下のProject

Projectの目的：

ライセンスコンプライアンスを通じて、**組織間の信頼関係**を構築する  
=> **OSSを活発、適切に使える環境**を整備する

OSSコンプライアンスのフレームワーク：

OpenChain仕様

カリキュラム

セルフ認証プログラム



General Manager：

Shane Coughlan (Linux Foundation)

日本（香川県）在住

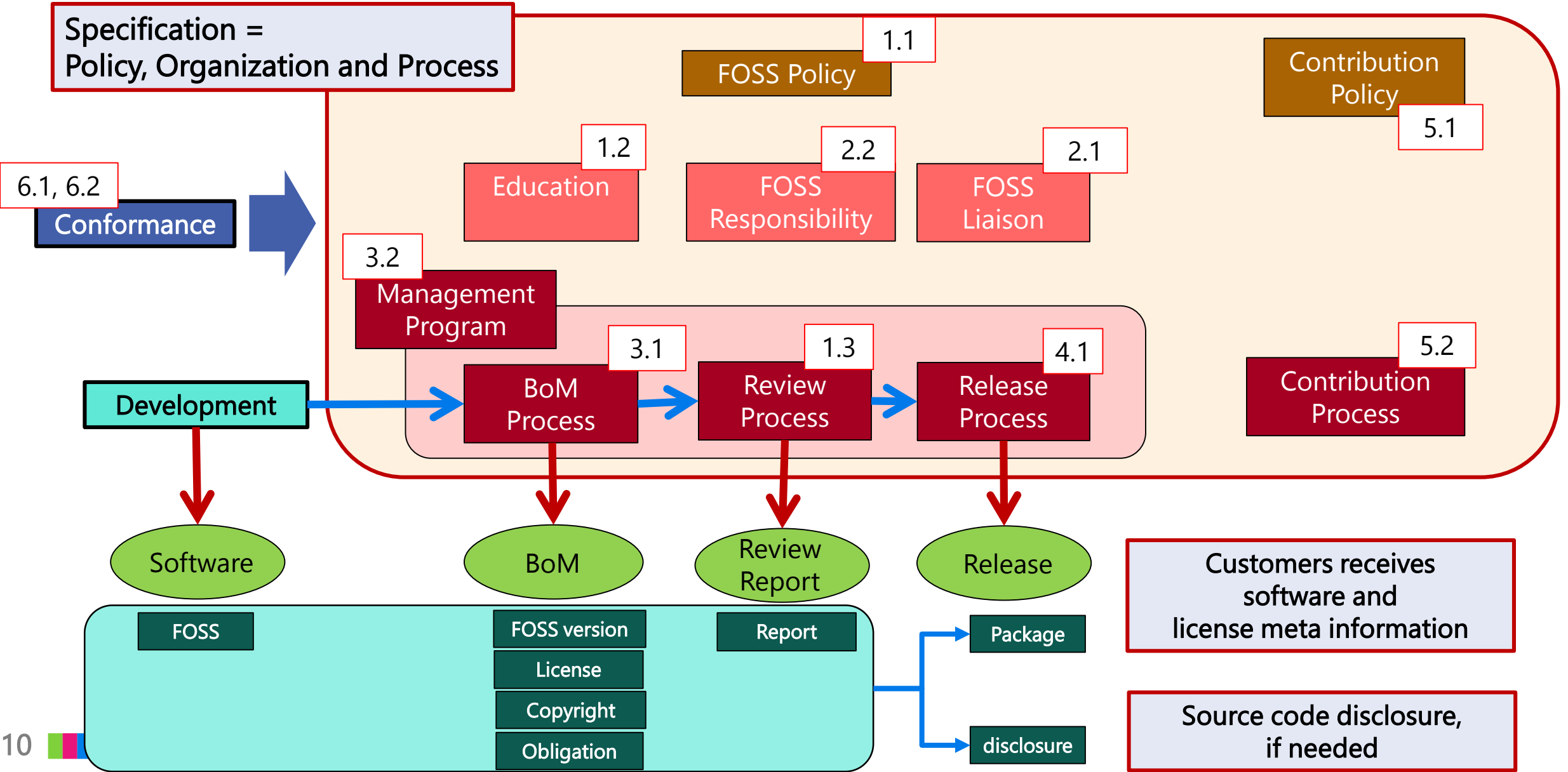


# OpenChain Project メンバー



OpenChain Projectは中立でオープンな活動  
プラチナメンバー：Projectの方向性を決定  
コミュニティメンバー：誰でも自由に参加可能

# OpenChain仕様の概要



# OpenChain 自己認証取得メンバー



# 第三者認証の取得

- 日立製作所にて  
「オープンソース ライセンス ガバナンス プロセス認証」  
を取得しました。

この認証はOpenChainプロジェクト  
が求める仕様に適合しており、  
OpenChainプロジェクトが認める  
最初の第三者認証の取得事例に  
なります。

認証機関である  
テュフズードジャパン株式会社  
発行の認証書



# OpenChain仕様の動向

## OpenChain仕様

現状： Open Standard

将来： ISO Standard化

## ISO化に向けた作業

ISOとコミュニケーション開始

## 教育部分の見直し

現状： 明確に規定

教育すべき内容、実施状況の把握、実施率

将来： 組織の裁量で決める

教育の内容、実施方法

---

# Japan Work Group

# 日本での課題を解決したい

サプライヤーから適切なOSSライセンス情報が提供されない



技術者： OSSの知見不足、法務サポート無し

マネージメント： OSSやライセンスへの理解不足



OSSライセンスの課題は自社だけでは解決できない



Japan Work Group



OPENCHAIN

# Japan Work Group

---

## OpenChain Projectの日本での活動

### Mission:

日本とアジアの技術者がOSSを適切に利用できる環境を作る

### Activities:

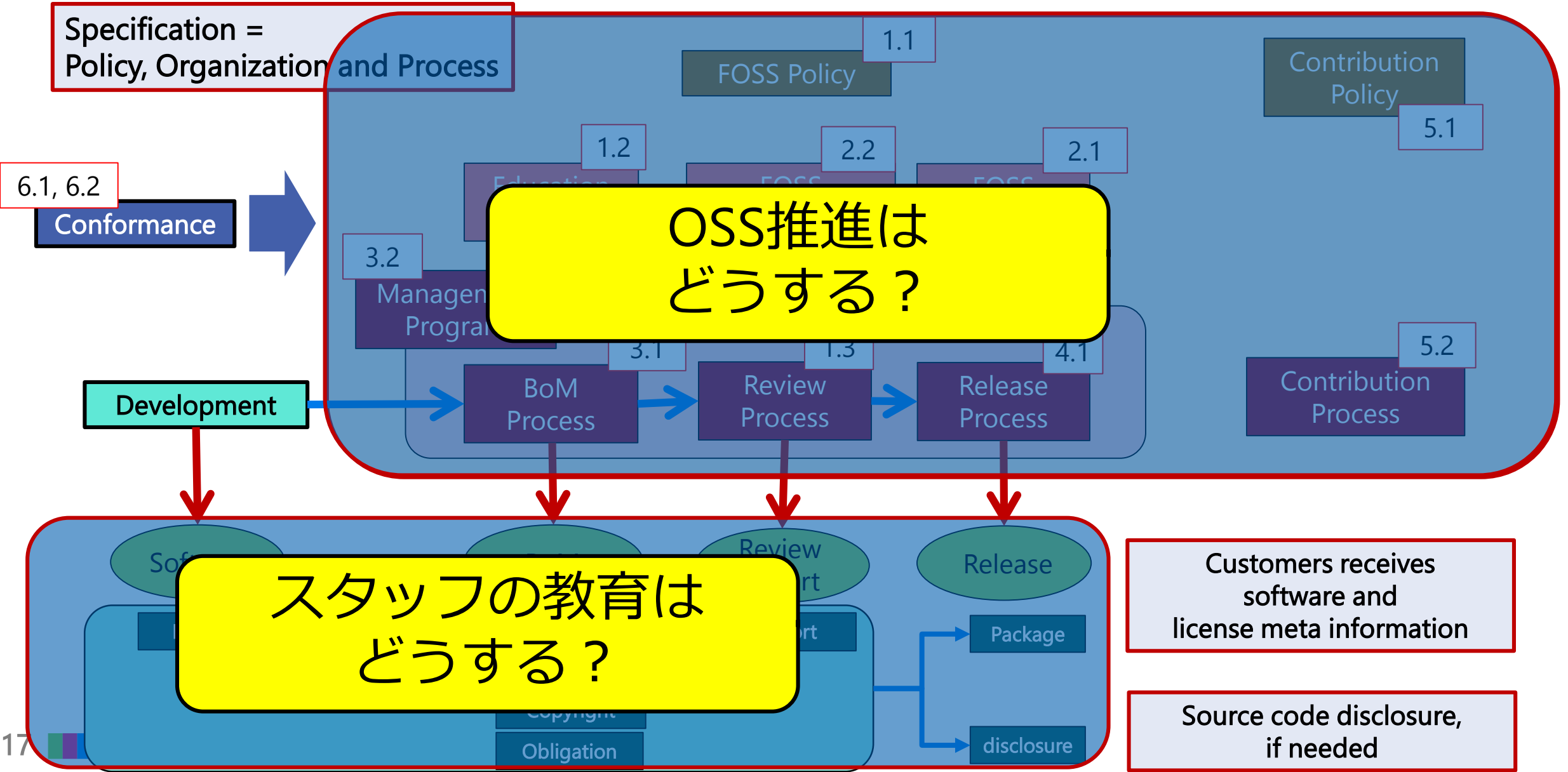
日本に固有の課題を解決する

日本とアジアでOSSコンプライアンスを推進する

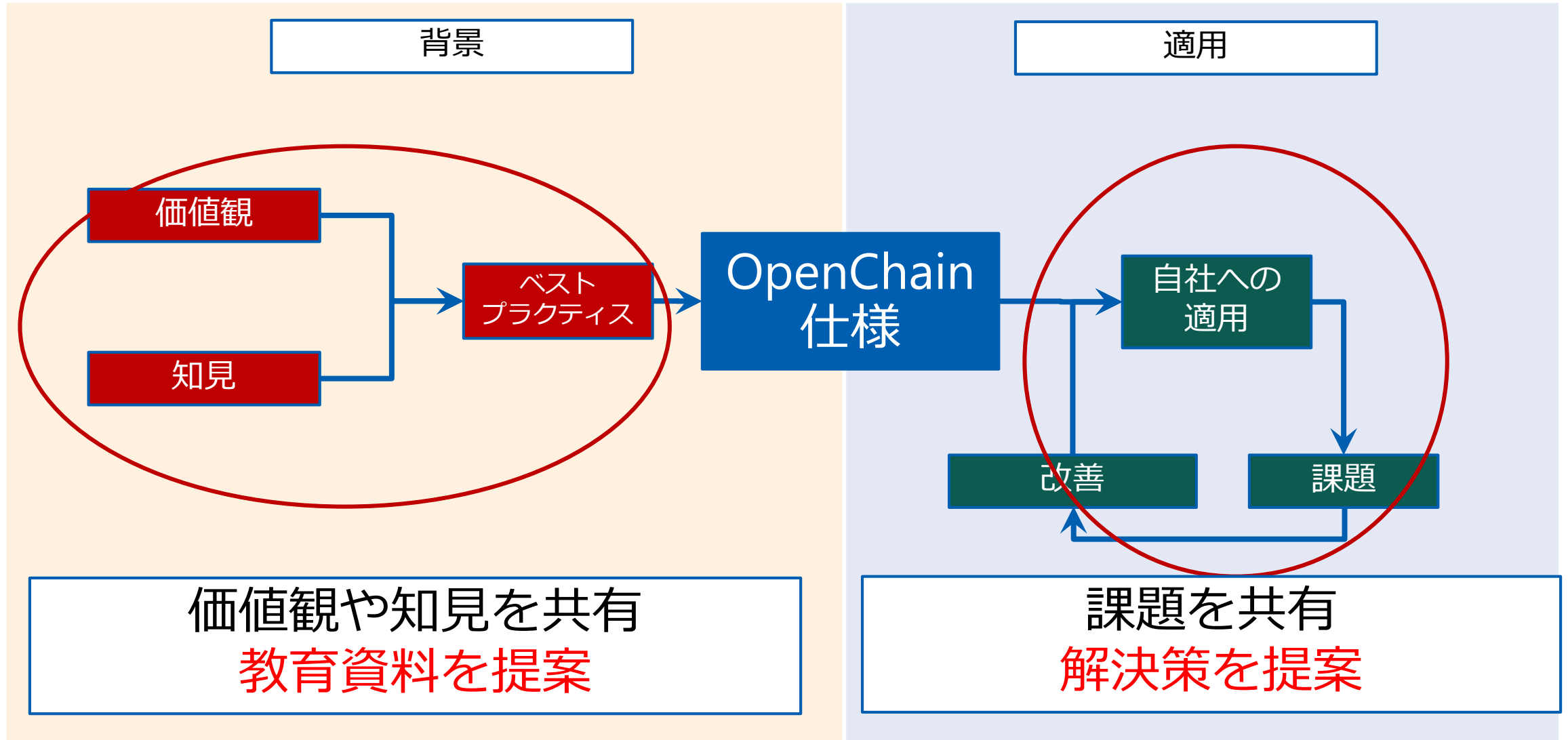
メンバー間でOSSライセンスに関する情報を交換し、ノウハウを蓄積する



# もっとも重要なこと

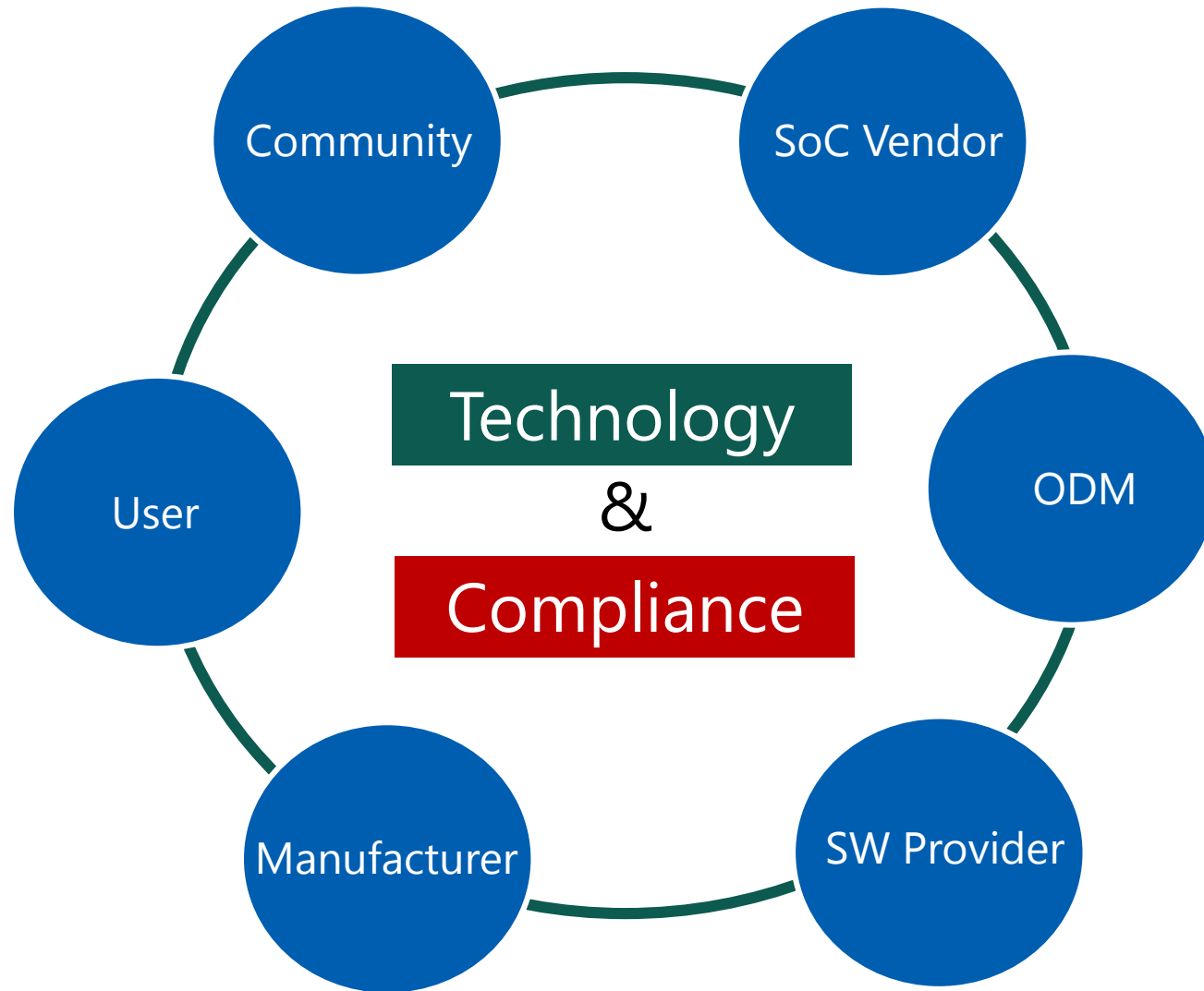


# OSSコンプライアンスの普及



# 価値観 = Healthy Eco System

---



# Japan WG活動のリソース

## 全体会合



## Sub Group活動

- 役割毎の教育資料
- FAQ
- サプライチェーン上流への啓蒙資料
- 組織間情報授受

Wiki <https://wiki.linuxfoundation.org/openchain/openchain-japanese-working-group>



- 会合情報
- SG活動成果・提案
- ケーススタディ
- 日本語訳  
Specification/Curriculum/onboarding/FAQ  
日本語と英語で公開・情報発信

GitHub <https://github.com/OpenChain-Project/Onboarding-JWG>  
<https://github.com/OpenChain-Project/Japan-WG-General>

ML [openchain-japan-wg@lists.linuxfoundation.org](mailto:openchain-japan-wg@lists.linuxfoundation.org)

# 全体会合でのトピックス

---

ミッション、ビジョン

サプライチェーン（日本、アジア）の課題

OpenChain仕様のレビュー

OSSコンプライアンス用ツール

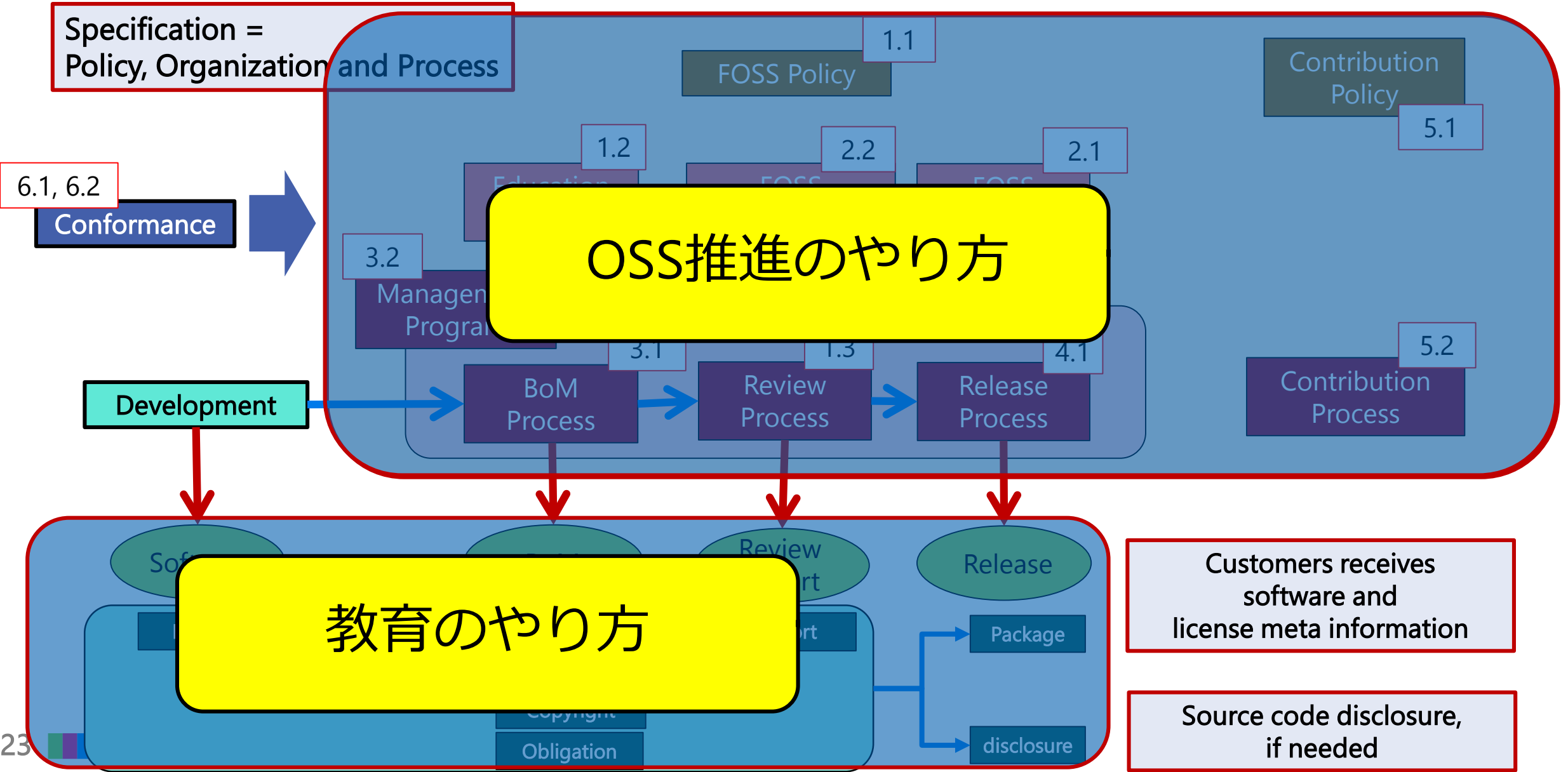
ライトニングトーク

Sub Group活動報告  
（教育資料作成、組織間情報授受 等）

---

# ライトニングトーク

# もっとも重要なこと




# OSSコンプライアンス ～組織・体制面～

会社名	パナソニック株式会社		
記載者	加藤 慎介	記載日	2018年4月17日
組織	専属組織あり / <b>バーチャル</b> or コミュニティ型 / 担当者レベル / Alone (備考: 専属組織や完全な専任者はおらず、バーチャルな体制。ただし「誰」を明確化)		
人数	100人以上 / 数十人 / <b>10～20名程度</b> / 数名 / ひとり / ゼロ (備考: コンプライアンス面の対応・推進として。技術面を含むOSS全体としては、これから)		
当社のポイント	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 法務・知財の参画</li><li>・ OSSコンプライアンスだけでなくソフトウェア全般を対象</li><li>・ 最終的には各開発部門に裁量はある</li><li>・ 社内ケースの良いところ取り</li></ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 海外対応</li><li>・ 人事異動や組織改変などによる体制・活動の維持、活動強度の波</li><li>・ 予算面 (組織がないという状況は予算面で・・・)</li></ul>		
備考	<div><div>Panasonic</div><div><div><div>社内カンパニー</div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 技術 (AAA)</li><li>・ 法務 (BBB)</li><li>・ 知財 (CCC)</li></ul></div><div><div>社内カンパニー</div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 技術 (DDD)</li><li>・ 法務 (EEE)</li><li>・ 知財 (FFF)</li></ul></div><div>.....</div><div><div>社内カンパニー</div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 技術 (OOO)</li><li>・ 法務 (PPP)</li><li>・ 知財 (QQQ)</li></ul></div><div><div>HQ(事務局)</div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 技術 (XXX)</li><li>・ 法務 (YYY)</li><li>・ 知財 (ZZZ)</li></ul></div></div></div>		



# OSSコンプライアンス ～組織・体制面～

会社名	ソニー株式会社		
記載者	上田 理	記載日	2018/4/17
組織	専属組織あり / バーチャル or <b>コミュニティ型</b> / 担当者レベル / Alone (備考:		
人数	<b>100人以上</b> / 数十人 / 10～20名程度 / 数名 / ひとり / ゼロ (備考:		
当社のポイント	社内コミュニティーを形成して対応している。 法務、知財、広報、品質管理なども参画。ほぼすべての事業ユニットから参画。海外事業拠点もカバー。 一部の事業ユニットは独自サブコミュニティーを形成		
課題	OSS対応の分散化進行中。 <b>社内完成度を上げることと社外への展開</b> が課題 →医療モデルを参考（町の名医が日常の健康管理を、大学病院は高度医療）		
備考	別に図解資料  <p>ソニーのOSSにまつわる体制 As of April 2018</p> <p>外部OSS Community Sony original 外部OSS Community</p> <p>Support from corporate software strategy committee</p> <p>Coordinator (OSS Strategy Board)</p> <p>Professional Advisory (Legal/IPD/PR/QCD)</p> <p>OSS License committee</p> <p>Business Unit Divisional Leader</p> <p>Business Unit Divisional Leader</p> <p>Business Unit Divisional Leader</p> <p>Business Unit Divisional OSS committee</p> <p>Business Unit Divisional OSS committee</p> <p>Business Unit 外部OSS Community Business Unit</p> <p>社内OSSパズル方式</p> <ul style="list-style-type: none"><li>About 100 members of OSS License Committee</li><li>OSS strategy board as the community leader (with a few experts)<ul style="list-style-type: none"><li>Tim Bird, Frank Rowland and a few members (about 10)</li></ul></li><li>OSS専任の組織は</li></ul> <p>1 Copyright 2018 Sony Corporation</p>		

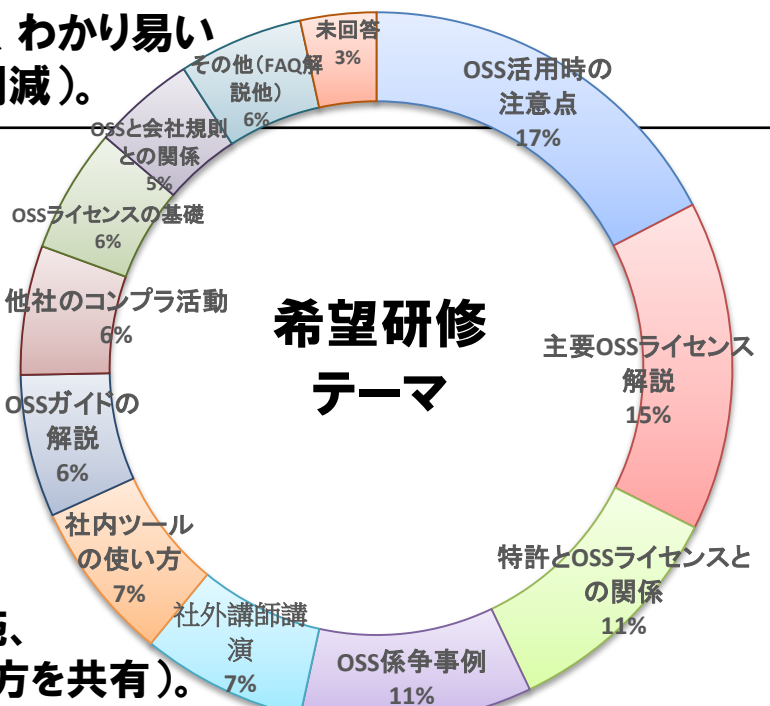
別スライドヘリンクあり

# ソニーのOSSにまつわる体制

As of April 2018



- 社内OSSバザール方式
- About 100 members of OSS License Committee
- OSS strategy board as the community leader (with a few experts)
  - Tim Bird, Frank Rowand and few members (about 10)
- OSS専任の組織は無い

会社名	株式会社 日立製作所	Wiki掲載	<div>OK</div> / NG
記載者	OSSソリューションセンタ 野村祐治 / 片桐和宣	記載日	2018/06/04
実施事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>e-Learning:OSSの基礎 (30分程度)</u> OSSライセンスの理解、OSS活用時の検討事項 (ライセンス, コミュニティ調査, etc)</li> <li>• <u>コンプライアンス研修 (2回/期, 半日程度, 40～50名/回)</u> 希望研修テーマより、毎回テーマを変えて実施 (ライセンス, 知財, 社内手続, etc)、隔回毎に外部講師 (弁護士等) を招聘して実施。</li> </ul>		
課題など	・ライセンス解釈(ライセンス伝播／特許調査等)に関して、わかり易い判断基準や対応方法を示したい(ケース・バイ・ケース対応削減)。		
こんな感じで話すことができます	<div> <div> <div>(基本)</div> <div>           ①Give&amp;Takeが基本(OSS活用の自由を与えてくれるOSS社会(文化)、OSS開発者への敬意、OSS理念の理解)            ②OSSはタダじゃないし、ルールもある            ③リスクを分かった上での活用            (外部講師招聘)            ・受講者が多く、評価も高い。講演依頼ネタ検討は苦労。            (その他)            ・特許とOSSライセンスとの関係については、研修とは別に実務者とのディスカッション(情報収集・共有(悩み等)を実施、研修コンテンツへフィードバック(ケース・バイ・ケースとはいえ考え方を共有)。         </div> </div> <div> <div>希望研修テーマ</div>  </div> </div>		

会社名	ソニー	Wiki掲載	<b>OK</b> / NG
記載者	福地弘行	記載日	2018/6/5
実施事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>• OSS研修(9時間、4回／年) + 個別にカスタマイズして国内外拠点で随時開催 約700名</li> <li>• コミュニティ連携研修(概論、Contribution)</li> <li>• 新入社員研修</li> <li>• E-Learning (SW開発者以外も想定) 約2000名</li> </ul>		
課題など	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 次世代リーダーの育成</li> <li>• SW開発者以外への浸透、サプライチェーンや協力会社への対応</li> <li>• OSS利用からOSS開示へ</li> </ul>		
こんな感じで話すことができます	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 講師が信念と熱意をもって語る</li> <li>• 基本方針「会社としてOSSの積極的な利用を促進しています」</li> <li>• コミュニティ視点「OSSで世界を良くしようと考えている開発者がたくさんいます」</li> <li>• OSSライセンスが作られた背景や開発者の意図を理解してもらう</li> <li>• 頒布というタイミングの重要性を認識してもらう</li> <li>• 開発以外の担当が登場するユースケースをクイズ形式で提示 (当事者意識を持ってもらう)</li> <li>• 実際にコミュニティとの間で経験したエピソードを話すことで、OSSをリアルに感じてもらう</li> <li>• OSS開示事例をパターンに分けて複数紹介</li> <li>• Maintainerにコミュニティで行われている実際の開発活動を紹介してもらう</li> </ul>		

---

## Sub Group(SG)活動

# 成長フェーズとサブグループ活動

赤字：Japan WGサブグループ  
青字：OpenChain活動  
緑字：他Project活動

#	Phase	Relevant Works
Phase 0	Orientation	リーフレット
Phase 1	Basic Education	教育資料作成 FAQ
Phase 2	Starting a Practice	組織間ライセンス情報
Phase 3-1	Making a Process	Specification Curriculum Universal Policy Checklist
Phase 3-2	Checking a Process	Conformance Self Check Tool
Phase 4-1	Improving (Process)	Case Study (ToDo)
Phase 4-2	Improving (Tool)	Tooling (ACT)
Phase 5	Advanced Process	M&A Checklist



# リーフレットSG ドラフト版

## オープンソースソフトウェアとは



ソフトウェアの提供をお願いするにあたりましてオープンソースソフトウェア（この資料では以下OSSと記します）の扱いにつきまして、ソフトウェアの提供をしていただくあなたにお願いがあります。たとえば以下のような方にぜひ読んでいただくことを期待しています。

- 半導体デバイスの利用をするためのソフトウェア開発キットを提供される方
- 依頼主の求めに応じてソフトウェア開発を受託される方
- ソフトウェア製品を開発し販売される方
- 大学等研究開発機関の方で研究成果物のソフトウェアなどを提供される方

OSSについてはソフトウェアを開発するエンジニアだけではなく法務・知財担当者、ソフトウェア調達担当者、営業・マーケティング担当者、品質管理担当者など幅広い人が適切に理解する必要があります。上級管理職の方がOSSの意義を深く認めていただければOSSの適切な利用に必要な投資や社内体制整備にもつながるでしょう。この資料は、幅広い人に向けてOSSの基本をお知らせするものです。なお、このリーフレットは、巻末に記した条件に従っていただければ、複写を作成し、配布等を自由にしていただくことができます。ぜひとも関係する方々で共有していただくようにお願いします。

### オープンソースソフトウェアとは

OSSとは一定の条件に従えば、誰でも改変をすることが許され、配布する事も許されるソフトウェアのことです。オープンソースソフトウェアは無償で入手し配布することが可能です。しかも入手し、利用し、さらに第三者に配布する際に、都度、ソフトウェアの著作権者から許諾を得る必要もありません。今日、世の中にはさまざまなOSSが出回っており、性能、品質、開発スピードなどの面でも秀でたものが数知れずあります。これらのOSSを、適切に利用することは現代のソフトウェア開発のあらゆるシーンで日常化しています。

### OSSの具体例

たとえばリナックスは代表的なOSSです。コンピュータシステムを構築するための基盤となるソフトウェアとしてオペレーティングシステム(OS)と呼ばれるものがあります。リナックスはOSの典型的なものです。利用されている領域も極めて広範で、ほとんどすべてのスーパーコンピュータで使われているだけでなく、同じリナックスが証券取引所のカーバシステムやさまざまなインターネットサーバ、Androidを搭載したスマートフォン、デジタルテレビなどの家電製品、さらには産業システム、自動車などにも搭載されて、システムを支えています。

リナックスは世界中から数万人とも言われる開発者が参画しそれぞれの献身的な貢献により作られています。この開発は今も活発に繰り返されています。私たちはこのような開発者の開発成果を開発者たちが提示するライセンス条件に従うことで無償で入手し、自由に改変し、また無償で自由に配布することができます。ライセンス条件を適切に理解し実施すべきことを実施することはことさらに重要です。

リナックス以外にも、たとえばhttpサーバとして有名なApache、コンパイラとして広く使われているGNU Compiler Collection (GCC)、ソフトウェア開発支援ツールのEclipseなどそれぞれ多量の数ほどOSSは世の中に流通しています。

### OSSとライセンス

OSSは著作権者が著作権を放棄したソフトウェアではありません。著作権者はライセンスを通してOSSの利用者に対してソフトウェアの利用を許諾します。また、場合によっては特許権などの利用許諾を加えている例もあります。OSSを利用するにはライセンスに対する適切な理解は決して避けて通れないものです。

ほとんどすべてのOSSライセンスではOSSの開発者の責任が負責されています。OSSの利用にあたっては利用にまつ責任は開発者には無く、多くの場合責任は利用者が負う事となります。

### ライセンスによって何が許諾されるか（著作権）

OSSライセンスにより著作権者は著作物の利用に対する許諾をOSSを利用する者に与えます。これは、利用者が利用許諾条件に従うことを前提に著作権者に却渡連絡を取るなどせずに与えられます。もし利用者が利用許諾条件に従わなかった場合は、著作権者から著作物を利用するにあたっての条件に違反することとなり、著作権法上恐ろしい状況になるでしょう。

### ライセンスによって何が許諾されるか（特許権）

ライセンスによっては、著作権と同時にOSSの開発にかかわった人や企業が持つ特許のうち、そのOSSのみで構成可能な特許がある場合は、それらの特許の自由

で無償での利用も認められる場合があります。これはすべてのOSSライセンスでみられるわけではありませんが、代表的なものとしてはApacheライセンスやGNU General Public License (GPL) version 3などが挙げられます。

### 代表的なOSSライセンス

オープンソースソフトウェアの普及促進をすすめているOpen Source Initiativeは一定の評価基準を定めた上で条件を満たす数十種類のライセンスをOSSの利用許諾をするためのライセンス（OSSライセンス）として認定しています。

<https://opensource.org/licenses>

ここで認定されているライセンスで利用許諾されたソフトウェアはOSSの典型例です。OSIが認定したライセンス以外で利用許諾されたソフトウェアでもOSSとして扱うのが望ましいものもあります。何がOSSにあたるのかについてはソフトウェアの提供を依頼する人と依頼される人との間でコンセンサスを得るようにしてください。

のプロジェクトでは、昨今複雑化

際ライセンスの下に提供  
ても構いません。なお、  
ください。このリーフレッ



[creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/)

Open Source Software  
License Compliance  
General Public Guide Book

草稿版  
表表紙

## オープンソースソフトウェア ライセンス遵守に関する 一般公衆ガイドブック



この小冊子はソフトウェアの提供をする企業、団体、コミュニティなどに対してオープンソースソフトウェア（OSS）の扱いについて一般に共通してお伝えすることができると考えています。ソフトウェアの提供をされる方がOSSについて適切な対応をされないソフトウェアの提供を受けた方々もOSSの適切な利用が出来なくなる可能性があります。最悪の場合はせっかくのソフトウェアが利用していただけない事態に至ります。このような事態を避けるためにはソフトウェアの提供をされる方々のOSSに対する適切な理解と提供を受ける方々への協力が不可欠です。

特にOSSはOSSの著作権者から提示されたライセンス条件を遵守することが極めて重要です。ソフトウェアを提供を受ける方々もライセンスで示された事項を的確に実施する必要があります。それにはソフトウェアを提供する方々からOSSの利用についての適切な情報提供やライセンス遵守に対する協力が不可欠です。

このリーフレットでは、OSSライセンスを適切に扱うために必要最低限の事項がまとめられています。企業によってはこの文書で説明する事項以外にソフトウェアの提供をするあなたに対してお願いする事項があるでしょう。それらにつきまして真摯に受け止めていただけていただきたいと思います。

OSSにはソフトウェアの開発効率向上、機能の充実、品質の向上などさまざまな利点があります。このリーフレットがOSSの一層の活用に役立つように願っています。

# 教育資料SG ケーススタディ事例#1

教育名称	対象者	形態	希望/全員	タイミング	英語版
経営者向け研修	戦略立案や方針策定、OSS利用を判断する経営者向け	講演会	全員	必要に応じて	無
OSS検出ツール研修	OSS検出ツールを使用する担当者向け	集合研修	希望者	1回/年	有
SW開発者向け研修	OSS利用を提案、OSS利用状況を把握する担当者向け	集合研修	希望者	1回/年	有
法務担当者向け研修	OSSを利用する案件を担当する担当者向け	集合研修	希望者	1回/年	無
知財担当者向け研修	OSSを利用する案件を担当する知財担当者向け	集合研修	希望者	1回/年	無
OSS基礎	OSSを利用したソフトウェアを開発、頒布する担当者向け	e-learning	部署単位で全員	1回/2～3年	有
SW開発委託者向けOSS基礎	OSSを利用した販促品の開発委託やOEMの仕入れを担当する担当者向け	e-learning	希望者	1回/2～3年	有
ユーザー対応者向けOSS基礎	製品購入したお客様と接する営業やサポート担当者向け	資料閲覧	希望者	1回/2～3年	有
パートナー向けOSS基礎	OSSを利用したソフトウェアを開発するパートナー向け	資料閲覧	希望者	1回/2～3年	有



# 教育資料SG ケーススタディ事例#2

教育名称	対象者	形態	希望/全員	タイミング	英語版
OSSの基礎 『2018年度版』	対象事業部門の営業、SE、設計、品質保証、他OSSを利用するための社内インフラの利用経験者(社内、関連会社)	e-learning	全員	1回/2年	有
OSSコンプライアンス教育	OSSのコンプライアンス(ライセンス、知財、他)、ガイドラインに関連する管理者、担当者向け	集合研修 (社外講師講演会含)	希望者	4回/年	無

Shared at GitHub:

<https://github.com/OpenChain-Project/Onboarding-JWG/tree/master/CaseStudy/Training>

# FAQ SG 第1版公開済み

## OSSライセンス関連でよくある誤解

本ドキュメントは、インターネットの記事やセミナーの質問等にて、よくある誤解をまとめたものです。日本だけに関係する内容も含まれています。

CC0-1.0（パブリックドメイン）で利用可能としますので、自由に追加、修正してご利用ください。

なお、記載内容について作成元は一切の責任を負うものではありません。

[提供元: 富士通株式会社]

CC0-1.0（パブリックドメイン）

禁止されていなければ、利用できる？

## Question

インターネットのWebサイトにて、プログラムをダウンロードできるようになっていました。特にライセンス条件がなく、商用利用も禁止されていないので、自社製品に同梱して利用してもいいですか？

## Answer いいえ

- ◆ 無償でダウンロードできるものがすべてOSSとは限りません。
- ◆ 著作権法では、複製したり、改変したり、配布したりする権利は、著作権者が専有しています。
- ◆ これらの権利について、著作権者が許諾していない限り、ネットに掲載されたプログラムを自社製品に利用することはできません。

CC0-1.0（パブリックドメイン）

責任があれば、利用できる？

調査していたところ、他部門で利用実績の含まれていることが分かりました。利用実条件は遵守可能とっていいですか？

## いいえ

かどうかはOSSの利用目的や利用方法にス条件を参照し、今回の利用方法で遵守する必要があります。

れば、OSSを配布する際の条件は関係あに含めるのであれば、配布する際の条件です。

CC0-1.0（パブリックドメイン）

Shared at GitHub:

[https://github.com/OpenChain-Project/Onboarding-](https://github.com/OpenChain-Project/Onboarding-JWG/blob/master/Education_Material/FAQ/OSS%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%B9%E9%96%A2%E9%80%A3%E3%81%A7%E3%82%88%E3%81%8F%E3%81%82%E3%82%8B%E8%AA%A4%E8%A7%A3_CC0.pptx)

[JWG/blob/master/Education\\_Material/FAQ/OSS%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%B9%E9%96%A2%E9%80%A3%E3%81%A7%E3%82%88%E3%81%8F%E3%81%82%E3%82%8B%E8%AA%A4%E8%A7%A3\\_CC0.pptx](https://github.com/OpenChain-Project/Onboarding-JWG/blob/master/Education_Material/FAQ/OSS%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%B9%E9%96%A2%E9%80%A3%E3%81%A7%E3%82%88%E3%81%8F%E3%81%82%E3%82%8B%E8%AA%A4%E8%A7%A3_CC0.pptx)

# 組織間ライセンスSG ガイドライン検討中

例:

ライセンス情報  
SPDX利用  
推奨版、簡易版  
必要項目  
背景説明  
サンプル  
作成手順例(ツール利用)

組織間のライセンス情報授受  
OpenChainの範囲外  
ガイドラインが必要では？

SW供給者

プロセス

OpenChain仕様

OSS  
ライセンス情報

SW受領者

プロセス

OpenChain仕様

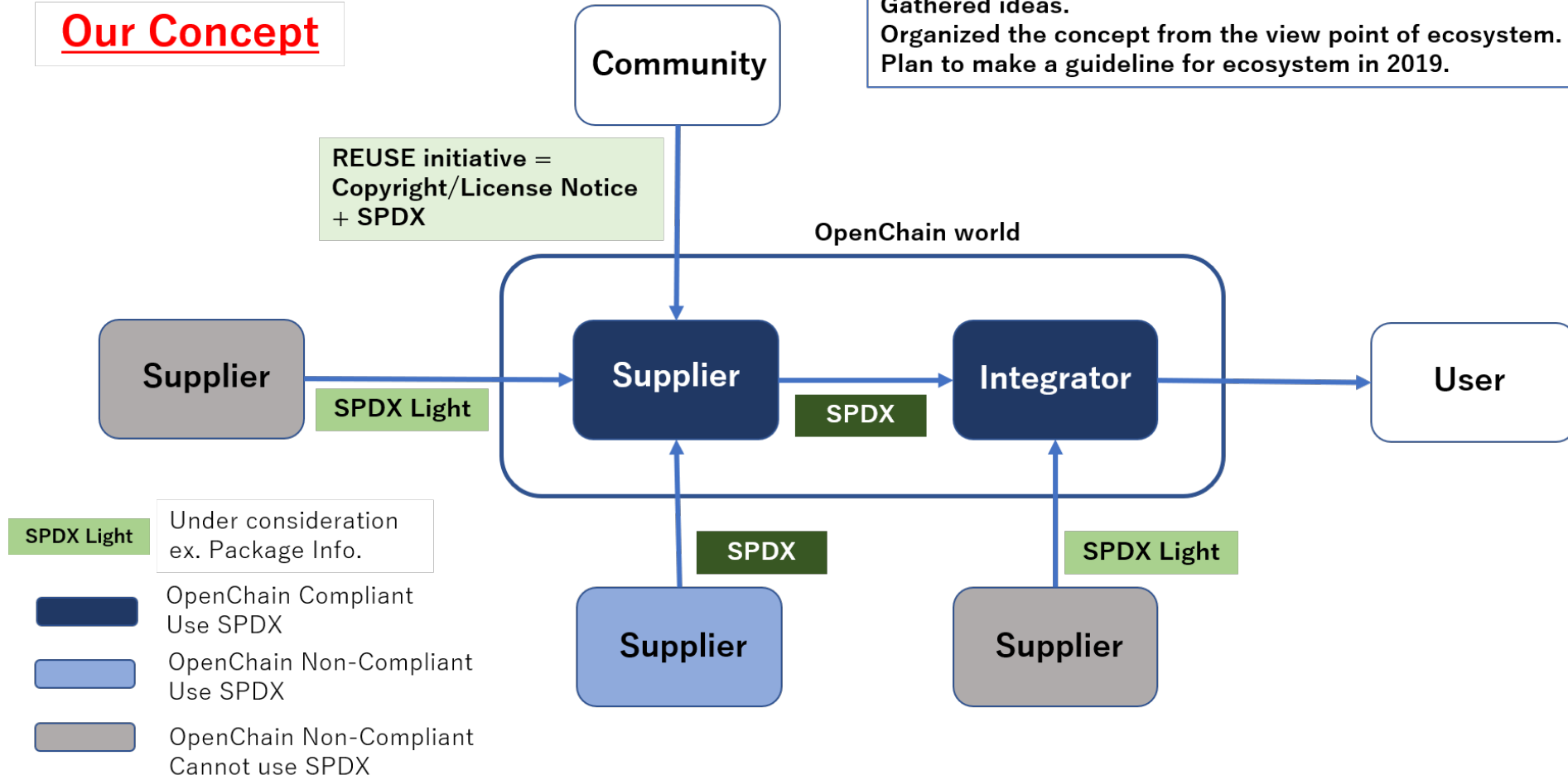
# ガイドラインのイメージ 検討中

OpenChain  
Japan WG

## Guideline for Exchanging License Info.

### Our Concept

Status:  
Gathered ideas.  
Organized the concept from the view point of ecosystem.  
Plan to make a guideline for ecosystem in 2019.



# ガイドラインのイメージ 検討中

ライセンス情報	SPDX version 2.1	理由
ソフトウェア名称	3.1 Package Name	ソフトウェアの識別のために必要
パッケージファイル名	3.4 Package File Name	使用しているパッケージを特定するため
バージョン	3.3 Package Version	使用しているパッケージを特定するため
プロジェクト ウェブサイトURL	3.7 Package Download Location	ソフト内容、修正情報などを確認できるようにしておくため
ソースコードの入手先URL	3.11 Package Home Page	検証が必要になった場合に取得できるようにするため
ライセンス	3.13 Concluded License, 3.15 Declared License	
コピーライト テキスト	3.17 Copyright Text	
ライセンスの補足	3.16 Comments on License	補足事項によっては使用の可否判断が変わるため、必要
SPDXのリストにないライセンス情報	6.1 License Identifier, 6.2 Extracted Text, 6.3 License Name, 6.5 License Comment	SPDXで定義されていないライセンスを記述する。Dualライセンスなどの場合に選択しているライセンスを記述する

Shared at GitHub:

<https://github.com/OpenChain-Project/Japan-WG-General/tree/master/License-Info-Exchange/Doc-at-Meeting>

# SPDX

SPDX® (Software Package Data Exchange®)  
<https://spdx.org/>

ソフトウェアのライセンス情報を授受するための仕様

Toolによる生成を想定

SPDX Short IdentifierはSPDX仕様の一部

SPDX 2.0 非公式日本語訳

[https://github.com/hfukuchi/SPDX\\_specification/tree/master/chapters](https://github.com/hfukuchi/SPDX_specification/tree/master/chapters)

**SPDX v2.1 Document contains:**

Document Creation Information

Package Information

File Information

Snippet Information

Other Licensing Information

Relationships

Annotations

---

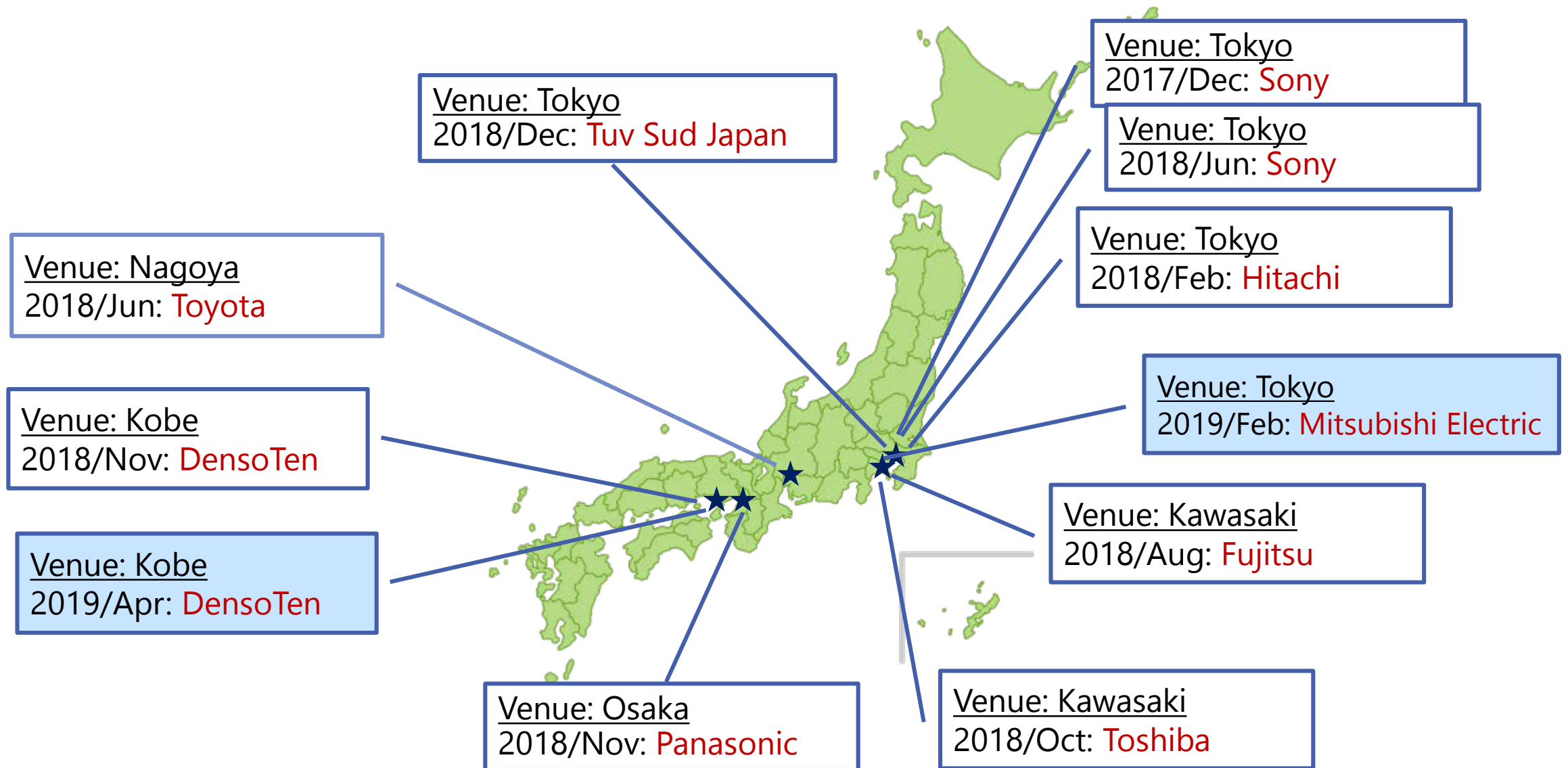
# オープンコミュニティ

---

オープンコミュニティに参加して  
一緒に活動しませんか？



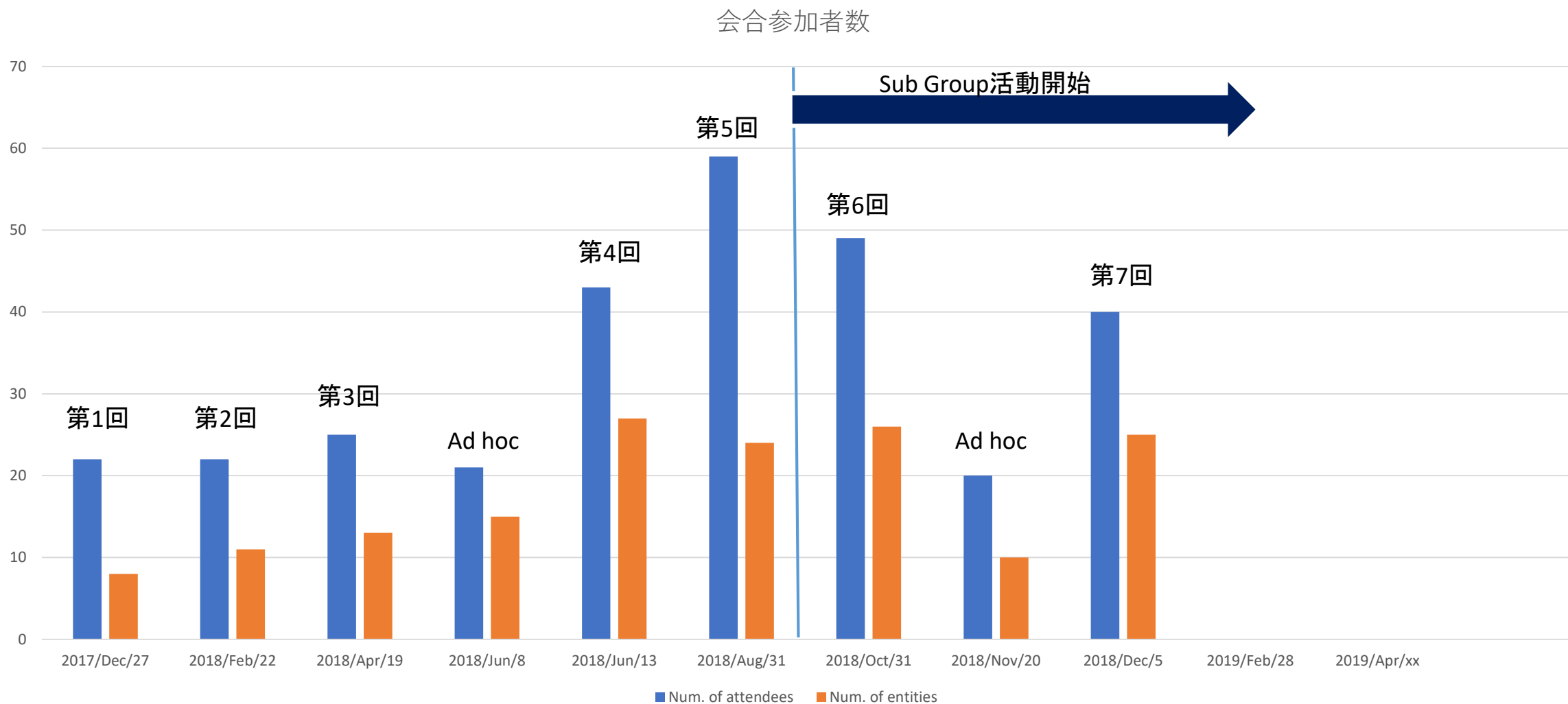
# 会合開催状況



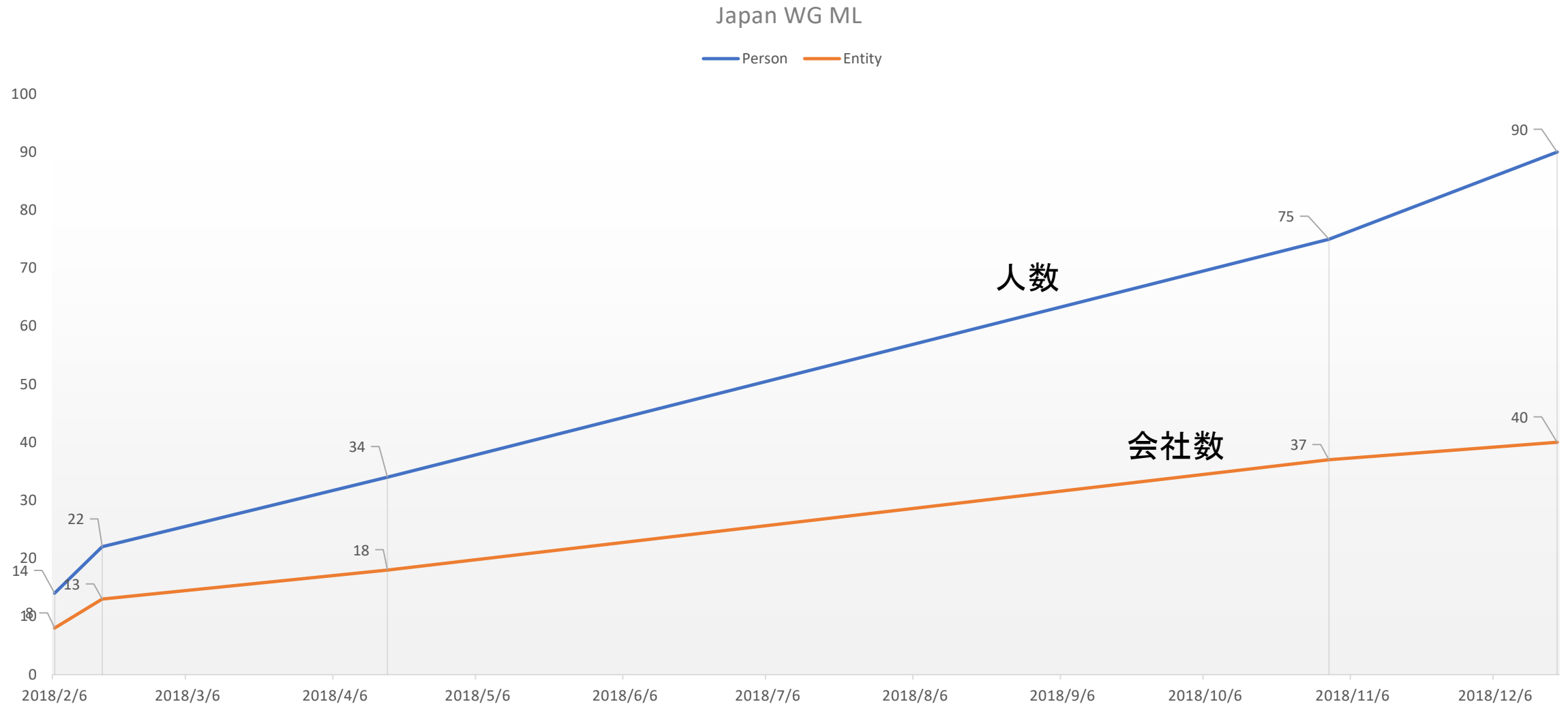
# 会合の様子



# 全体会合 参加者数・参加企業数



# MLへの登録者数



# なぜ活発な活動

人

知見の豊富な人、問題意識の高い人、行動力のある人

場所

日本語で議論できるコミュニティ  
Linux Foundationの存在が、中立で自由な「場所」に  
グローバルに連携して、日本だけで孤立しない

リーダーシップ

参加しやすい雰囲気、自由に議論できる雰囲気、いつも何かが議論されている場所

つながることで課題を解決できる

# グローバル連携

General Manager: Shane Coughlan

密接に連携、Japan WG会合参加、Japan WG情報発信

国際会議での発表

Open Compliance Summit

OSS compliance workshop in Taiwan

全体会合へ海外ゲストを招待

第7回会合 Bosch, LG Electronics, LOTNetwork, TUV SUD

成果物を英語で発信

資料を英語化してGitHubで公開

SPDXコミュニティと議論

# 関連リソース

---

- OpenChain project:
  - Website: <https://www.openchainproject.org/>
  - Wiki: <https://wiki.linuxfoundation.org/openchain/start>
  - GitHub: <https://github.com/OpenChain-Project>
  - ML: [openchain@lists.linuxfoundation.org](mailto:openchain@lists.linuxfoundation.org)
  - Translations: <https://www.openchainproject.org/translations>
- OpenChain Japan WG:
  - Wiki: <https://wiki.linuxfoundation.org/openchain/openchain-japanese-working-group>
  - ML: [openchain-japan-wg@lists.linuxfoundation.org](mailto:openchain-japan-wg@lists.linuxfoundation.org)
  - GitHub: <https://github.com/OpenChain-Project/Onboarding-JWG>
  - <https://github.com/OpenChain-Project/Japan-WG-General>
- SPDX:
  - Website: <https://spdx.org/>
- SPDX 2.1 非公式日本語訳
  - GitHub: [https://github.com/hfukuchi/SPDX\\_specification/tree/master/chapters](https://github.com/hfukuchi/SPDX_specification/tree/master/chapters)



Thank you!